



# いずみ

令和6年4月30日発行

<学校教育目標>

自ら行動する子  
かかわり合い、  
よりよい自分を  
目指す子

学校HP



コミュニティ  
スクール



(Tel) 3480-3881 (Fax) 5497-7358 (HP) <http://www.komae.ed.jp/ele/izumi/>

校長 鷲見 真太郎

## 新たな学校教育目標に向かって

教務主任 石橋 玉有

新年度が始まり、1ヶ月が経ちました。新しい学年に少しずつ慣れ、笑顔で元気に過ごす子供たちが多く見られます。新学期のスタートを上手に切ることができ、嬉しく思います。

さて、今年度の和泉小学校は、学校教育目標を下記のように大きく変更しました。

### ○自ら行動する子

### ○かかわり合い、よりよい自分を目指す子

昨年度、教職員で「どんな人に育ってほしいのか」、「未来の社会を生きるためにはどのような力が必要なのか」など学校経営方針全体構想図を基に話し合いを重ね、新たな学校教育目標を作りました。

それに伴い、教育課程を変更しています。教育課程とは、学校教育目標を達成するために子供たちをどのように育成するかを具体的に示し、計画したものであり、教育活動の基盤となるものです。教育課程を児童や保護者、地域の皆様にご理解、ご協力をいただき、子供たちが安心して学校生活を送れるように教職員一同共通理解を図り、よりよい和泉小学校を目指していききたいと思います。

今年度は、予測困難な時代を乗り越えるために前向きに取り組み、主体的に解決する力や考えて行動する力などの「児童自身が考えて行動すること」。様々な人とのかかわりを通して、自他理解や生命を大切にすることなどの「かかわり合いを通して、自分を見つめ、受け入れながら成長させること」の2点を軸に教育活動を進めていきます。

1つ目の「児童自身が考えて行動すること」では、自治的な活動をさらに広げていきます。昨年度の子供たちの成長から「主体性の高まり」「自治意識の高まり」が見られました。そこで、今年度は学び手主体を意識した学校・学級づくりを展開していきます。主に校内研究である「問いをもって学び続ける児童の育成」をテーマにした授業づくりや児童運営委員会による運営、言語活動の充実などを図り、子供たち自身が課題に気付き自分たちの手で学校・学級を創り上げていくことを進めていきます。

2つ目の「かかわり合いを通して、自分を見つめ、受け入れながら成長させること」では、キャリア・パスポートを活用した自己調整能力の育成や対話による問題解決、特別支援教室との連携などを通して、自他理解を深めながらよりよい自分を見つけていきます。

今年度の初めに、教職員に対し「どのような学校にしていきたいか」という問いを投げました。そこでは、「気軽に行きたい場所」「やってみたいと思える学校」「一人ひとりの居心地がよい場所」「安心して来られる学校」「子供も大人も楽しいと思える学校」「信頼のある学校」など子供たちのことを一番に考えた学校について話し合っていました。教育課程にこの教職員の思いを組み合わせながら、子供たちのよりよい成長、よりよい学校づくりにつなげていきます。

そして、学校と子供たちだけでなく、保護者、地域の皆様とともに一緒に考えながらよりよい和泉小学校を創り上げ、未来に生きる子供たちを育てていきたくと思っています。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

### 5月の生活目標

#### 言葉づかいに気を付けよう

- 友達の名前に「さん」をつけて呼ぼう。
- 「です」「ます」をつけて話そう。

### 5月の安全指導

#### 気持ちのよい挨拶

- 相手の心に響く、気持ちのよい挨拶について指導します。ご家庭でも気持ちのよい挨拶に取り組んでほしいと思います。